

1	金		16	土	
2	土		17	日	礼拝式（奨励：T 姉）
3	日	礼拝式（奨励：Y 兄） 聖餐式（永松師）・役員会	18	月	
4	月		19	火	
5	火		20	水	
6	水		21	木	祈祷会
7	木	祈祷会	22	金	
8	金		23	土	キャンドル・サービス（永松師）
9	土		24	日	クリスマス礼拝（永松師）祝会
10	日	礼拝式（証し：E 姉）	25	月	
11	月		26	火	
12	火		27	水	
13	水		28	木	祈祷会（月報印刷と発送作業）
14	木	祈祷会	29	金	
15	金		30	土	
			31	日	礼拝式（塩崎師・呉教会）

12月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。（敬称略）

編集後記

- ◇ 月報12月号を盛り沢山の内容でお届けできることを嬉しく思います。どうやって埋め込もうかと思うほど記事が寄せられ、皆さんの協力に感謝いたします。
- ◇ 「神様が、（料理で例えるならレンジでチンするのではなく、じっくりと時間をかけて）私の中に作って下さった深い信頼、愛の世界」についての証を聞きました。何故？どうして？と思うもののあふれている世界の中で、神さまは私たちに働き続け深い平安の場所を作ってください。
- ◇ 春からの変化は教会にとって大きな試練だったと思いますが、神様がじっくりと作ってくださる料理はきっとすばらしいものです。期待しつつ。

教会月報

2023年 12月

No.391

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

『降りて来なさい』と呼ぶ救い主

イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見る事ができなかった。それで、イエスを見るために走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。（略）人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」 ルカによる福音書 19:1~10

私たちは誰もが「誰かから愛されたい、そのまま受け入れられたい」と思いを心のどこかに抱えているのではないのでしょうか。そのままの自分を受け入れてほしいけど、どこかで諦めながら、多くの人々がザアカイと同じような孤独を味わっているように思います。誰かを受け入れることも、誰かに受け入れられることも、誰かを愛することも、誰かに愛されることも、簡単なようでいて難しいものです。愛し愛される資格が私にはない、でも寂しい、受け入れられたい、と呻く一人一人を見つめて、イエス様は呼びかけておられます。名前を呼んで「急いで降りてきなさい」と私たちを招いておられるのです。

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」と言われた言葉のとおり、イエス様は神様の前から失われていた私たち一人一人をすべて捜し出して救うために来られた救い主です。愛する独り子の命を差し出された神様は「恐れるな、あなたはわたしのもの、わたしはあなたの名を呼ぶ」と、今もイエス様の十字架の上から呼びかけておられます。

【野村友美牧師（呉教会）～ 岡山教会11月19日礼拝説教要旨】

野村先生が礼拝に選ばれた讃美歌452番「神は私を救いだされた」は、先生が大好きな曲とのこと。岡山教会聖歌隊でもかつて賛美したことが思い出されました。



永眠者記念礼拝



今年は気温の暖かい永眠者記念礼拝でした。11月5日(日)、先に永眠された方々のご遺影が飾られた会堂で、ご遺族(10 家族)と共に 22 名での礼拝をもつことができました。(ご遺族:K、F(E)家、K 家、O 家、Y 家、S 家、K(T)家、F(T)家、S 家、M 家)

礼拝では永松師よりヨハネ福音書 11:17~27 から「復活の命」と題してメッセージが語られ、また、M 姉のパイプオルガン奏楽により「いつくしみ深き」「花彩る春を」を賛美しつつ、故人を偲ぶひとときでした。

礼拝後は、第一墓地にて8名、第二墓地にて 3 名による墓前礼拝がもたれました。

コロナ禍による制限下にあった 2020 年~2022 年に続いて 2023 年も変わらず、「聖徒の日」永眠者記念礼拝を迎えることが出来た喜びは、神様からの格別な贈り物のようでした。



第一墓地にて



KGK 鈴木主事を迎えて



鈴木主事を囲んで



11月26日(日)の礼拝は、KGK(キリスト者学生会)の鈴木俊見(としあき)主事(中四国担当)をお迎えして、礼拝メッセージをいただきました。

以前から岡山ナザレン教会を会場に、KGK の祈禱会や聖書研究会がもたれたことがあったご縁で、いつかはお招きしたいとの願いが叶った経緯です。

いまは、宗教に対する偏見が強くなっている時節の中でも、“学生が学生に福音伝える”働きの実際についてお聞きしたあと、ルカの福音書5:1~11から「沖に漕ぎ出して」と題してメッセージを頂きました。右はアウトラインです。

ガリラヤ湖畔で、群衆と共にイエス様のお話を最も近くで聴いた漁師・ペトロは、イエス様のお言葉「沖に漕ぎ出して」「人間をとる漁師になる」に対して二つの決断をした。「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」「すべてを捨ててイエスに従った」。ペトロはイエス様のことをすべて理解していたわけではなかったが、「沖に漕ぎ出した」ことで一歩を踏み出した。「人間をとる」ということを理解したペトロではなかったが、今できる決断をし従うなかでイエス様のことが見えていくのだった。私たちにとっての「沖」は？イエス様に従うときに見せていただけるものに期待しよう

礼拝後には、鈴木主事を囲んでの茶話会が12名の出席で和やかにもたれました。

備前県民局長表彰

「総合グラウンド ラジオ体操の会」
(世話人 S.K 兄)

~令和 5 年度観光保全功労者等 備前県民局長表彰受賞~

私たち表彰されました

「第3回関西アートコンペ」

三野恵子姉



私は黙々と考えながら一度兵庫県の公募展に出展してみたいと思いました。「第3回関西アートコンペ」を調べると、全国の都道府県から出展できる公募展ということだったので、これまで京都、東京、岡山で個展やグループ展に出した「柔らかな頬の異形犬」を応募してみました。11月初めに通知が届き、なんと応募した作品が「優秀賞」に選ばれたと知りました。また「優秀賞」の中で一番とのことで「ホルベイン賞」も受賞したとの知らせが届きました。私は大変嬉しかったです。

「第3回関西アートコンペ」は 11 月 15 日(水)~19 日(日)に開催され、18 日(土)は表彰式に出席するため家族みんなで神戸に行き、展示作品を見に父の親戚と大学時代の親友も来てくれました。表彰式で受け取った写真付きガラス板トロフィーを見て、神様が努力に報いて大きな励ましと勇気を与えてくれて、芸術活動を進めていくように語りかけてくれたと感じました。心から感謝しています。

40 年以上の長きにわたり、毎朝岡山県総合グラウンド内を 30 分以上清掃していますが、それが「毎日ひたむきに清掃活動に取り組む姿は、地域住民やグラウンド利用者を問わず、地域の環境美化に対する意識を高めており、他の模範となる。」と評価されました。この受賞に私たちはびっくり!!

毎日ラジオ体操もがんばって、夏休みは子供達にカードにハンコを押しながらコミュニケーションをとり、夏休み最終日には皆さんからの「カンパ」でお菓子・文房具を渡しています。子供の人数は約 80 人でした。来年も夏休みが楽しみです。

ゴミ拾いして下さる方は増えています。信仰のあるなしに関わらず、あたたかく愛を感じさせて助け合い、体操やゴミ拾いを通じて思いやりの輪がひろがりました。中には大学時代にキリスト教を専攻していた方も居られ、体操の前に 2~3 人で讃美歌『いつくしみ深い』を歌っていました。これにはビックリ!! 神様はいつも私達のそばにいらして救いの手をさしのべて下さっているのだと確信しました。感謝です。